

# 議会だより

News Letter From Hachijo Town Assembly

 八丈町

No.198

2021.5.25 発行

議会だよりは八丈町のホームページでもご覧いただけます

<http://www.town.hachijo.tokyo.jp/kakuka/gikai/gikaidayori.html>

各地域の婦人会長。左から山下美美子  
さん(中之郷)、冲山美智子さん(末吉)、  
上ノ山ヒデ子さん(榎立)、奥山玉恵さ  
ん(大賀郷)、金川津屋子さん(三根)



八丈島連合婦人会

## 婦人会に新たな風を！



パブリックロードレース懇親会  
での婦人会による島料理

今回は、八丈島連合婦人会（榎立地区）会長の上ノ山ヒデ子さんからのお話をまとめさせていただきます。各地区代表5人の会長の皆様には、議会だより表紙写真撮影にご協力いただきました。婦人会は八丈町にとって欠かすことのできない団体です。中でも、八丈町のイベントで集客率の高いパブリックロードレースでは、給水担当として榎立・中之郷・末吉地区の婦人会の方々のご活躍をはじめ、三根・大賀郷婦人会による懇親会での島料理が目玉となっています。そして、敬老会でも、婦人会の皆様の温かなおもてなしが欠かせません。また、生ごみ減量問題では、皆様の呼びかけによってコンポストが定着しつつあります。これからも様々な形で八丈町とのコラボを行い、さらなる貢献を果たしたいというご意向でした。2019年11月28日、婦人会に新たな風を求めて、5人の女性議員との懇談会を5地区が協力し、三根公民館にて婦人会主催の【第1回連合婦人会と女性議員との懇談会】が開催されました。婦人会員は約60名の方々が参加し、忌憚のない意見が交わされ、実りある貴重な機会となりました。第2回目の開催も検討されています。これらの活動にとどまらず、多くの行事にご協力いただき、心より感謝申し上げます。（取材者 宮崎陽子）

### CONTENTS

#### 厳しい予算ながら、大型事業着々と

- 2P 第1回定例会
- 3P 一般質問
- 9P 質疑より
- 10P 町民の声



フリージアまつり会場での婦人会の活動

# 第1回定例会

令和3年3月2、16、17、30日

## 厳しい予算ながら、大型事業着々と

令和3年第一回定例会は、町長の施政方針（原文は広報4月号に掲載）で始まりまし  
た。今年度当初予算は一般会計74億8千万  
円、特別会計24億7千万円、公営企業会計  
35億7千万円です。

歳入のうち自主財源である町税は約9億  
円。人口減少やコロナ禍により昨年度比約3  
千万円の減収が見込まれています。全体に  
占める割合は12.1%で、その他の8割近く  
は国や都からの交付金等で賄われています。  
町債は約5億5千万円。昨年度より減額  
され財政的な負担が若干減りました。

令和3年度に予定されている大きな事業費  
として、旧庁舎解体工事（他）で約1億2千  
万円、令和6年度完成予定の新クリーンセン  
ター建設関連で約1億円、小学校特別教室の  
空調施設整備で約1億円、浮き漁礁1基製作  
に約6千万円（耐用年数約10年）、新歴史  
民俗資料館実施設計等に4千万円が計上され  
ています。

都道線形変更による旧庁舎解体は今年度  
および来年度で実施され、それにともない  
町営バスの事業所関連施設に整備されま  
す。予算規模的には大きくはないものの、  
新規事業としてがん患者のためのウィッ  
グ、胸部補正具等購入費助成金が100万円

計上されました（p.9に関連質問あり）。  
また昨年度は十分に行うことができなかつ  
たアジロヒラフシアリ対策に関する調査  
は、今年度も樫立地区において実施されま  
す。

企業課が計画していた定期バス路線の再  
編については、全員協議会および本会議で  
中之郷温泉路線（長楽寺～足湯きらめき）  
の廃止が問題となり、再検討することにな  
りました。これによって全体の見直しも先  
送りされます。乗客の利便性と経済性の両  
立はなかなか難しいですが、公共交通とし  
ての在り方について行政とともに議会も知  
恵を絞っていかなければならないと考えま  
す。（岩崎由美）

### 議会運営委員会より

議員定数削減案（14→12）を  
6月定例会に提出します。

6月定例会に、議員定数を現在の14名か  
ら12名に削減する条例を提出することが  
決定しました。ご質問、ご意見などがあ  
りましたら、議会事務局またはお近くの議員  
までご連絡ください。

**みなさまのご意見をお聞かせください。**

### 主な議決事項

**3月定例会** 令和3年3月2、16、17、30日

- ◎ 八丈町職員懲戒審査委員会委員及び補充  
員の任命の同意について  
ほか同意1件
- ◎ 令和2年度八丈町一般会計補正予算  
ほか補正予算7件
- ◎ 令和2年度農地防災事業樫立登立水路改  
修工事請負契約の変更  
ほか契約2件
- ◎ 令和3年度八丈町一般会計予算  
ほか予算7件
- ◎ 八丈町国民健康保険条例の一部を改正す  
る条例

ほか条例3件

- ◎ 損害賠償の額の決定について
- ◎ 議員の派遣承認について（令和3年度東  
京都町村議会議員講演会）  
ほか派遣承認2件
- ◎ 八丈町辺地総合整備計画の策定について

### 主な会議事項

#### 議会運営委員会

令和3年2月24日、3月11日

- ◎ 令和3年第一回八丈町議会定例会につい  
て

# 一般質問

3月16日  
質問者9人

3月定例会では、町政全般へ9名の議員が14項目にわたる一般質問を行いました。掲載した原稿については、質問議員が作成しています。なお、紙面の都合上、質問内容、回答ともに要約したものととなっておりますので、ご了承ください。

質問の録画映像はインターネットでもご覧いただけます。

<http://www.town.hachijo.tokyo.jp/kakuka/gikai/movie/movie304.html>

氏名	質問項目
宮崎陽子	国家戦略特区からのコロナ禍における町民への周知と新たな医療改革について 八丈町施政方針と次期基本構想・基本計画からの総体的アプローチとビジョンについて
山本忠志	がん検診受診率の向上を コロナワクチン接種体制の早期整備を
浅沼隆章	消防団員の人員減少について 農業者への対策について
金川孝幸	新型コロナウイルスについて フリーズアまつりについて
山下巧	町営バスの有効利用について
沖山恵子	中之郷温泉経由の路線バスは運行停止以外の方法をさぐれないか 地域おこし協力隊の活動目的と内容はなにか
岩崎由美	八丈町役場の就業環境に関する質問
山下則子	廃屋に対する町の考えは
廣江才	町の政策変更と議会との関わり方について



宮崎陽子議員

所要時間 22分

## 国家戦略特区からのコロナ禍における町民への周知と新たな医療改革について

固 新型コロナウイルス感染拡大によって限られた医療資源※を有効活用するため、自宅にいながらにして、オンライン診療や遠隔服薬指導が受けられることについて、推

進が求められている。システムの更新を見直しながら今、取り組みを始める重要な時期である。医療データの二次利用やICTの活用など、健康づくりの環境構築に向けて今後の八丈町からの具体的な見解を問う。

答 事務長 ICTを利用した診療需要が高まることや、医療データ二次利用の重要性については共通の認識である。推進を考えながら医療崩壊に繋がらないように全力を注いでいる。来年度は老朽化した電子システムの入れ替えを予定し、可能な限り医療改革を進めていく方向で検討したいと考えている。

※医療資源とは医師・看護師などの人的資源や医療機器などの物的資源のこと

## 八丈町施政方針と次期基本構想・基本計画からの総体的アプローチとビジョンについて

問 町民が八丈町基本構想・基本計画の冊子を読んだ時に、新たな言語でリードし、これから訪れる将来への希望を抱き、さらに理解を深められるような言葉の新鮮さが問われている。八丈町の総体的アプローチと大きなビジョンについて、答弁を求める。

答 企画財政課長 町の大きなビジョンとして「住民が主役の町」をはじめ、4つの柱を掲げて、共に支え合うあたたかい町を将来像としている。共に創るという意味の共創などこれまでになかった表現も反映している。町としては社会の変化を適切に捉え、施策の実現に向けて取り組んでいく。

答 町長 町民憲章に沿って町の基本構想・基本計画を策定し地道に住民と懇談会も行ってきた中で斬新なご意見もあった。行政として大きな計画を立てて実現するまでには10年20年かかる。コロナ禍で厳しい現状であり、八丈町独自の施策を着実に進めていくことが一番重要だと思っている。ご提案を参考にしながら、策定を考えているのでよろしくお願ひしたい。



山本 忠志 議員

所要時間 24分

## がん検診受診率の向上を

問 国立がんセンターの発表によると2020年の我が国のがん死亡数は約37万人で、一日あたり約1,000人。一方、ここ一年間の新型コロナウイルス感染症の死亡者は、2月末現在7,826人で、一日当たり約22人となっている。コロナ感染を警戒するあまり、がんへの警戒感が薄れている傾向を懸念している。がん検診の受診率向上に向けて町の考えを伺いたい。また、がん検診の質的向上と広報の工夫について町の所見を問う。

答 福祉健康課長 今年度のがん検診はコロナ禍で困難もあったが、時期を遅らせて実

施した。今後も実施率向上と検診の質的向上についてさまざまな取り組みを検討したい。

答 教育課長 がん検診受診への住民意識高揚のため、町立小中学校の児童生徒による「ポスターコンクール」の実施も検討したい。

## コロナワクチン接種体制の早期整備を

コロナ禍は、今ワクチン接種という新しい局面を迎えているが、この事業は国民的一大事業であり、町は、万全な接種体制を整えてその使命と責任を果たすべきであり、以下の回答を求める。

問 ワクチン接種の山場の時期とクーポン券の郵送時期、及び接種に関する広報計画

答 福祉健康課長 ワクチン接種の山場は、島内人口の4割を占める65歳以上の方の接種時と想定しているが、日時は確定していない。接種計画確定後、町のホームページ、広報、防災無線でお知らせしたい。

問 接種に向けての問い合わせに対応するコールセンターの設置

答 ワクチン接種による副反応や基礎疾患に関する問い合わせへの対応は、町職員では回答が困難であり、国や都の相談窓口などを案内する予定である。

問 国で進めている「新型コロナウイルスワクチン接種記録システム」の導入計画

答 「新型コロナウイルスワクチン接種記録システム」と連携させる予防接種台帳システムが町にはなく、このシステムを導入させるには、費用と日数がかかるので、既存の住民基本台帳システムの情報を連携して使うために、今、準備を進めている。



浅沼 隆章 議員

所要時間 26分

## 消防団員の人員減少について

問 消防団員が定員330名のところ令和3年2月1日時点で機能別消防団員55名を含め224

名という状況。団員を増やすための施策は。

☒ 消防長 人口減少が少なからず影響していると考えられるが、今後の課題として入団促進の一環として、消防団員の待遇改善を含み、団幹部会などで検討していく。

## 農業者への対策について

☒ 町は農業生産額や出荷状況の推移を把握しているか、また独自の支援や具体的な施策は。

☒ 産業観光課長 平成31年度農業生産額約20億円を比較対象とし、令和2年12月時点で共撰、個人出荷合わせて約8700万円減少している。町の独自支援については対象者の範囲、支援内容について検討している。

☒ 島内外の就農希望者をより多く受け入れる準備があるか、また今後の方針は。

☒ 八丈での農業をステージ1~4に設定し、わかりやすくホームページで紹介している。農業体験研修を充実させるため指導農業士を20名確保した。受け入れ態勢の強化を図る。

☒ 農地の取得に対しての取り組みと農地の流動化率は。

☒ 新規就農者の方へは農業委員または農地利用最適化推進委員を紹介し、農地を取得している。町は情報提供に努めている。また、農地の流動化に関しては、農業経営基盤強化法において利用権設定をした昨年の件数46件、面積13.5ヘクタール、東京都全体で38ヘクタールなので、八丈町は35%を占めている。



金川 孝幸 議員

所要時間 31分

## 新型コロナウイルスについて

☒ 新型コロナウイルスによる企業の倒産や失業などの状況は。

☒ 産業観光課長 コロナの影響か確証はないが2店舗辞めた。失業については雇用保険の申請は46名で前年から5名増えてい

る。

☒ 羽田などの空港では着陸料を減免されているが八丈島空港の状況は。

☒ 従来から6分の1に減免されている。

☒ GoToトラベルキャンペーン終了後の観光落込みを見据えた対策は。

☒ 町独自の割引クーポンの発行、スポーツ合宿誘致などの取り組みを考えている。

☒ 休校を想定したオンライン授業は。また、教員育成などの対応は。

☒ 教育課長 同時双方向性や個別対応など5つの方法を用意して対応している。教員の研修や端末支援員のサポートもある。

## フリージアまつりについて

☒ フリージアまつりの経済効果は検証されているのか。フリージア生産者の数と生産額を把握しているのであれば55年前からの推移及びまつり会場への来場者数は。

☒ 産業観光課長 平成29年から31年まで3月の経済的な数値は伸びており、まつりの効果と考える。生産額は昭和55年の1億9千万円をピークに年々減少している。まつり会場への来場者は毎年5千人以上ある。

☒ まつり会場以外に多くのフリージアの花は咲いてないのにフリージアの島との強いイメージを与えていると思

う。開花とまつりの期間の合わない年もあるので開催時期を見直す考えはないか。

☒ 団体ツアーの集客は半年前になるので時期の見直しは考えてない。町の中にプランターを設置するなどの工夫も行っている。

☒ 毎年フリージアの球根を配布しているが、地区数と配布数は。

☒ 今年度は42地区、23,130球。

☒ キャラバンを年度末で忙しく人事異動前の時期に行うのは効果的ではないのではと思うが考え方は。

☒ 現在は訪問先を減らし、都知事訪問をメインとして実施している。

☒ 発想を大きく変えて、他の花も多く咲くので一足早い春を売りにクジラやフルーツレモンなど新しい観光資源を活用した見直



しの考えはないか。

☐ 検討したい。



山下 巧 議員

所要時間 7分

## 町営バスの有効利用について

今回の新型コロナウイルス感染症による世界的規模の影響は私たちの生活環境まで直撃し、いまだ終息の兆しは見えていない。観光産業に関わる島の生活も今後、持続、存続にかかわる大変きびしいものとなっている。この機会を新しい観光のありかたに改変していく時期と考える。観光事業者からの要望として二次交通がしっかりしていないと島の観光は上手く回らず、今後二次交通改善に向けた協議会を立ち上げる必要がある。来島客からは空港、港の発着に合わせたダイヤがないが、この島は来島客のことを考えているかと、不満がよせられている。旅行会社は二次交通がカバーされてないと安心して送客ができない。レンタカー手配がままならない。改善を求めたい。かつて100台あったタクシーも25台となり、ついでには雨天時の自転車に代わる交通手段としてバスに期待したい。現在町は乗ってみたいような新型のバスを含め11台保有しているが、乗客数は少ない。バス利便性と利用価値、利用者を増やすための考えを問う。

☐ 観光客のためのバス運行サービスについて八丈島空港、底土港、八重根港の発着時刻に合わせたルートのコミニティバスで空港→港→観光協会→空港をエンドレスで100円バスを運行し、その先はタクシーを利用していただく。これによって繁忙期のターミナルへの送迎車・レンタカー・タクシーの混雑緩和になる。何より到着した観光客のお得感と島に歓迎されている心意気を感じられるのではないだろうか、トータルで来島客が増加することでタクシー、レンタカーの利用が減少し、民業圧迫になることはないと思う。

☐ 企業課長 乗合バスの利用客数は、昨年度まで増加傾向にあった。魅力的な車両の影響もあるかもしれない。今後は車両の魅力だけでなく、路線の見直しを考えていく。バス運行サービスについては、お客様のさまざまなニーズを検討していく必要がある。



沖山 恵子 議員

所要時間 32分

## 中之郷温泉経由の路線バスは運行停止以外の方法を探れないか

「花と緑と温泉の島」をキャッチフレーズとする観光地八丈町が、温泉経由のバスを廃止しようとしている。温泉行のバスがなくなるのは問題だと思う。

☐ 中之郷温泉経由の路線バスは、他の課と協力して観光の二次交通のため代替の車を走らせるとか、コロナの予算を活用して定期的にタクシーを走らせるとか、別の方法を探れないか。

☐ 企業課長 他の便とくравても利用者は多くなく影響は少ないと考える。ご理解いただきたい。

☐ 町役場のバス停変更に伴い、待合所を作る予定はあるか。バス停隣接地は役場の土地なので、可能かと思うが。

☐ 現在の場所は、安全面で不安があり変更を検討した。まだ新しいバス停の場所が決まっておらず、待合所については状況をみながら検討する。

## 地域おこし協力隊の活動目的と内容はなにか

地域おこし協力隊は、契約に縛られて隊員が思うような活動が出来ないと以前から聞いている。町・隊員・地域の考える目的と活動内容に差があり、すり合わせが必要だと思う。町に活動をお願いすると地域のための活動は、目的外なので業務ではなく個人的にボランティアで行うならば可能だと

言われてしまう。地域の活動も目的に入れて欲しい。

**問** 地域おこし協力隊の活動目的は何か。

**答** 企画財政課長 末吉の協力隊の活動目的は廃校の活用である。

**問** 廃校活用は長年取り組んでいるがうまくいっていない。地域のことを知ってこそ新しい発想も生まれると思うが、地域の活動にまで範囲を広げられないか。

**答** あくまで廃校活用が目的で委託契約をしている。業務としてはそれが原則となる。

**問** 事故対策と保険は。

**答** 町のイベントは行事保険を掛けるが、個人事業主なので町の活動以外の補償はない。事故に関する保険は検討したい。



岩崎由美 議員

所要時間 27分

## 町の就業環境に関する質問

各職員が力を発揮するために環境を整えることは、町民への福祉にとって重要なことである。

**問** 町執行部における女性管理職の割合は5.6%と全国平均を大きく下回っている。ジェンダーにとらわれずに管理職を増やしていくことについて町の考えは。

**答** 総務課長 「八丈町における女性職員の活躍の推進に関する特定事業主行動計画」を策定している。これに基づき女性職員が働きやすく、活躍できる環境作りの体制整備に取り組んでいく。

**問** 八丈町における現行の人事評価制度における導入の経緯、評価方法、制度における効果と課題は。

**答** 平成26年、改正地方公務員法により人事評価や職員の昇級などが定められたことを受けて、東京都をモデルにして導入。効果は面接を実施することにより評価者と被評価者の意見の相違がなくなる点、仕事の成果だけではなく途中の経過も評価できる点。課題は評価者側の評価の精度を高めていかなければならない点で長期的な取り組

みが必要。

**問** 評価による給料の査定は。

**答** 成績による職員の給料について、年々昇級する率が変わってくる。

**問** 評価が仕事へのモチベーションにつながっているかということ、そうでないことも多いのではないか。新たな八丈町独自の評価制度を考えていくことはできないか。上から下への評価だけでなく、下から上への評価は行っているか。

**答** 面接をしながら実施していくということ、一方的な評価ではない。3年ほど前から評価する側、される側双方に総務課が研修を行っている。現行の評価制度については過渡期にあるので、今ここでやめるわけにはいかないが、改善などは繰り返しながらやっていく。

**問** 町のトップである町長と職員の交流はどの程度あるか。適材適所で人を生かすためにもさまざまな現場職員の声を聞く努力はしているか。

**答** 町長 職員に嫌がられているかなと思うくらい交流を図っているつもりだが、役場に出勤して身近に声をかけることはなかなかしていない。逆に私が行くと気を遣うのではという思いもあるものの反省もしている。普段からの声かけには今後努めていきたい。



山下則子 議員

所要時間 13分

## 廃屋に対する町の考えは

最近の八丈町では、人口の減少とともに、居住者のいない空き家が増えている。そしてその中には、壊れかけている建物、いわゆる廃屋も散見される。そこで、住民の安心安全を脅かしている廃屋について伺う。

**問** 2015年に「空き家等対策の推進に関する特別措置法」が施行された。それ以降今日までに、そのまま放置すれば倒壊する恐れのある保安上危険な建物や、著しく衛生上有害となる恐れのある建物などの件数を

町は把握しているか。また把握しているとすれば、その件数は何件か。その中で、勧告により「特定空き家等」と認定した建物は何件か。さらに、この法律では、勧告や命令に従わない場合は行政代執行も可能となっている。住民の安心・安全な生活を守るために一日も早い撤去をすべきと考えるが、町の考えを伺う。

☒ 総務課長 保安上危険建物と把握している物件は現在23件。このすべてに勧告をだしている。その内、補修・改善に応じたのは6件。「八丈町台風及び地震等の災害予防に関する条例」に基づき防災防犯上の観点から、飛散防止を目的として協力をお願いしている。また、修繕などにかかる費用負担の問題もあり、こちらが改善できないと難しい。

☒ 倒壊しそうな建物であっても建っていれば固定資産税が優遇され、なかなか改善されないのでは。

☒ 税務課長 個人の家が建っている土地の場合、固定資産税は1/6、平米数によつて1/3に軽減される。「特定空き家等」と指定されれば軽減がなくなり6倍になるが、今回は台風関連の条例の勧告になるので、軽減はなくなる。

☒ 特定空き家等として指定されなければ税金は優遇されたままである。災害・防災上危険なので、「特定空き家等」と早く認定していただきたいがどうか。

☒ 総務課長 「特定空き家等」に関しては条例がないのでできないが、危険なところには再勧告を出していきたい。今後は検討の課題とする。



廣江 才 議員

所要時間 17分

## 町の政策変更と議会との関わり方について

☒ このたび、経済企業委員会協議会の場で、いきなりバス路線廃止の報告があっ

た。議会で審議されるべき重要な政策変更だと思うが、どういう見解かお尋ねしたい。藍ヶ江路線は足湯、やすらぎの湯、ザ・BOON、ちょっと足を延ばせば裏見ヶ滝温泉と、いわゆる町が観光を売りにしている温泉の密集地区である。また、最近足湯に浸りながらホエールウォッチングができる場所である。しかも、この路線は高齢者が生活の足として利用している。この沿線の高齢者は坂道を歩いて買い物などに出向いている。公共交通機関として、途中に停留所を設け、むしろ使い勝手のいい路線として検討するべきである。先日、この件に関して、議員からの要請による検討会が開かれた。検討会の場で、代替え案を求めたところ、「路線廃止には、手続き上議会の承認は必要ない」という。重要なのは、何故廃止しなければならないかが問題なのである。とにかく、この件は手順手続きを含め、提案自体が拙速であり、深い議論の上で決定すべきだと思うが、見解を伺いたい。

☒ 企業課長 今回の路線変更の見直しは、利用客も少なく、地域の手承も得られているとの判断から提案した。バス事業は厳しい状況の中経営を行っているので、ご理解願いたい。

☒ 利用者は先ごろ免許証を返納した高齢者である。そうした住民はこれから増えると思う。それにどう対応するのか。また地域の手承といわれるが、錯誤の手承は手承とは言えない。再度、答弁いただきたい。

☒ 企業管理者 町営バスは一般会計から多額の補助金をいただきながら運営している。国の方からも今年度中に経営戦略を立てるように要請されている。今回の路線変更は乗降客の状況などを勘案して全路線を対象として見直しをした。本定例会で温泉経由便についていろいろご意見を伺うことができた。この件については多方面から十分に検討を重ね、あらためて議会の皆様とご相談したい。

# 質疑より

## ● 受験生チャレンジ支援貸付事業委託料



浅沼憲春 副議長 受験生チャレンジ支援貸付事業委託料の関連で、島を担う島外の子どもたち・学生に給付金を支給する考えはないか。

福祉健康課長 この事業は東京都が実施主体で、受験費用に貸付するもの。島から出ている学生等への町としての支援は、今後検討したい。

## ● ウィッグ等購入費助成金

山本忠志 議員 がん患者のウィッグ等購入費助成金100万円の算定基準は。また助成の対象者は女性だけなのか。がんに起因するかの判定基準は。

福祉健康課長 島外医療の助成データを元に調査したところ、約150名の方ががん関係で通われている。初年度なので、150名の方々のうちまずは100名とした。広く周知し、必要な方に自己申請でやっていただく。男女関係なく申請があればウィッグの支給を年に一回（1年たつと体の変化もあるため）という形で考えている。診断書やそれに関わるウィッグの購入の領収書の添付を考えている。

山本忠志 議員 ウィッグはけっこう高く、20～30万円は当たり前である。値段設定の見直し、需要頻度に応じて検討してほしいがいかか。

福祉健康課長 他自治体を調査したところ、購入価格の2分の1か上限が3万円、1万円というところがある。上限額については、申請者の人数を勘案し検討したい。

## ● ワクチンの選択は

山本忠志 議員 先日の新聞などで複数のワクチン接種が始まった場合、どのワクチンを接種するか自ら選択できるようにするという報道があった。町は対応できるのか。

福祉健康課長 実際はまだ八丈にワクチン自体一回も届いていないという状況。まずは4

月に入ってから医療従事者分のワクチンを配布するという情報は入っている。それはファイザー社製。住民の方のことを考えると一刻でも早く接種を行いたいという気持ちで、ある程度確保できているファイザー社製で町としては対応したい。

## ● 島の給食メニューについて

山下則子 議員 3月11日の給食メニューはアルファ化米の五目御飯、ムロメンチ、あしたば胡麻和え、八丈ジャージー牛乳という内容で島の業者の応援事業としてもよかったと思うが、児童・生徒の反応は。また今後の島のメニューについてどのように考えているか。  
教育課長 残飯から推測すると多くなかったとのことで、好んで食べてもらえたと認識している。令和3年度も地産地消を進めていく。10月は防災週間の日にも取り入れる予定。



3月11日の給食メニュー

## ● 給食の地産地消率をカロリーで

岩崎由美 議員 給食の地産地消率は以前重量で算定していたが、現在金額で算定している。カロリーにすることはできないか。地産地消を進めるうえで、どの程度農協と生産者と栄養士と連携がとれているか。また有機野菜などの利用は検討できないか。

教育課長 地産地消率についてはすぐには答えられないので調べる。関係者の間で密な連携が取れているとはいえないが、今後そのように進めていけたらと思う。食材の安全面に関しては現在もないがしるにはしていないものの、さらなる安心感をという面で、コストを勘案して進めたい。

## 元認知症対応型通所介護事業者

### 中村 則子さん 典央さん ご夫妻

昨年、認知症対応型通所介護事業所「花」を閉所された中村ご夫妻にインタビューしました。

Q なぜ、事業所を閉めたのですか。

A 大きく2点あります。介護制度が変わったことと、通所者が減ってきたことです。

Q 具体的には。

A 私達は、「安心と安楽の毎日」をコンセプトにご家族が安心できるデイサービスの提供に尽力してきました。お



典央さん(68) と則子さん(69)

年寄りが安心するよう職員も中高年を多くして、食事も島の物や利用者さんが興味を持った物を取り寄せるなどしていました。また、10名の利用者さんに対し6から7名の職員を配置していました。しかし、介護制度の見直しにより介護報酬自体が下がり、下がった分を補う加算は「花」のような小さな施設ではもらいに

くいのが現状です。年数を経るにつれ、利用者さんも減りました。思いだけではできなくなりました。

Q 利用者さんが減ったということは、認知症のかたが減ったのですか。

A 内地にいる子供さんが親を一人で置けないと呼び寄せたり、早めに施設に入所させたりしているかと思えます。

Q 最後にこれからのお二人について。

A 僕は、社協の学習支援で子供達の勉強をみたり、成年後見人を行っていきます。(典央)

私は、八高生や若者に認知症や八丈のお年寄りのことを話したいと考えています。そしてこれからは、地域貢献として「花カフェ」(認知症カフェ)で三根から末吉まで回って行きたいです！(則子)

(山下則子)

## 戦争体験者

### 沖山 茂さん(96歳)

戦時中の疎開船「東光丸」の沈没では、多くの末吉の住民が犠牲となりました。取材のため、お話をしてくださる方を探していたら、身近に多くの関係者がいることに驚きました。一家5人が亡くなり1人生き残った96歳のおばあちゃん「沖山茂(しげる)さん」に当時の様子を聞きました。もう年だし記憶違いがあるかもしれず恥ずかしいので、写真はなしでとのことです。

昭和19年、島にはたくさんの兵隊がいて、20歳だった私は三原山の防空壕に設置された「超短波」という通信施設で、一つ年下の女性と働いていた。都内との通信はなかなか繋がらず苦勞したが、軍事施設なので宿舎に食料は豊富にあり、給料ももらえ、生活の苦勞は感じなかった。しかし、戦況が悪くなり八丈島も危ないと、両親と弟妹5人も疎開することになった。自分も誘われたが、仕事があるので断り、家族を見送りに行った。

敵の潜水艦が近くにいることがわかり一日遅れの出航に。港には兵隊が並び、多くの負傷兵が本土に移送された。知りあいの助産師も兵士の看護のため乗った。職場に戻ってもう東京に着いた頃かと話したら、魚雷で撃沈されたと聞かされた。船の最後の様子は、後になって海に落ち、泳いで住民でただ一人助かったTさんから聞いた。

その後、三原山の宿舎は爆撃にあい、焼夷弾が落ちたが、全部不発弾で燃えなかった。散弾も落とされ、地面近くでバラバラと散り、足にも当たったが死ななかった。両親は自分達が助かり娘は島で犠牲になると思って出発したのに、反対になってしまった。

戦後は、貯めた給料を持参金に親戚の紹介で結婚したが、親弟妹が皆死んだため一人きりで頼る人がなく大変苦勞した。当時お世話になった人も一緒に働いた人も亡くなり、何の因果か自分だけがこの年まで生きている。

当時は今の私たちには想像もできない世界だったと話してくれました。

(沖山恵子)

## [あしがき]

10年ほど前、手指が痛く整形外科を受診。医師は診るなり「加齢です」とキッパリ。今日までの間に第一関節は膨らみ指先は曲がり、窓口で署名を求められ、手を見られていると恥ずか

しい。何でも加齢でかたづけられてしまうのはどうなのかと感じる昨今。高齢者と呼ばれるようになった今なら、「先生、カレーって辛口・甘口それとも中辛ですか」と言い返せるかも知れない。(山下則子)

発行人 八丈町議会議長 奥山幸子

編集 議会だより編集委員会 委員長 岩崎由美 委員 宮崎陽子 山下則子 沖山恵子

〒100-1498 東京都八丈島八丈町大賀郷 2551-2

tel 04996-2-2788 fax 04996-2-4437 メール gikai@town.hachijo.tokyo.jp

